

New Keynesian Dynamic IS Curve and Weak Identification Robust Test in GMM Estimations

神戸大学大学院生 海野 晋悟

本論文では、ニューケインジアン・フレームワークで、現在の産出を決定する時に理論的に重要であると特徴づけられる動学 IS 曲線を推計する。過去の多くのニューケインジアン・フィリップス曲線の研究で言及されたように、動学 IS 曲線における構造パラメータに関しても、パラメータを識別することは重要である。そこで、本論文では、動学 IS 曲線における産出ギャップと実質金利の実証的重要性を検証するために、弱識別下においても頑健な総計的検定を可能にする方法を考慮して一般化モーメント法推計を行う。推計と検定結果として、アメリカの戦後のデータから動学 IS 曲線における予期される産出の役割が明らかになった。しかし、ほとんどの推計されたパラメータは、弱識別の問題に影響されていることが明らかになった。特に、動学 IS 曲線の傾き（金利の弾力性）は、この問題の影響を最も受けていることが確認された。